



9月議会が、8月30日から9月27日まで開かれました。

今回の一般質問の特徴は、7月豪雨災害があったので、10人中ほとんどの議員が防災・災害問題について行ったことです。

私も赤坂・多賀地内に建設されている太陽光発電施設の造成工事で、防災対策は万全だったのか。また河本地内の道路が浸水し通行止めになったが、水路の見直しが必要ではないかと質問しています。

また、市民に関心が深い、小・中学校のエアコン設置や通学路のブロック塀対策について各議員が質問しました。

そして、9月議会は、平成29年度の予算の使われ方がどうだったのか審議する決算議会でもありました。そこで主なことについて報告します。

小・中学校のエアコン設置は？

小・中学校のエアコン設置は、今年の夏休みに小学校4～6年と中学校の普通教室と音楽室計159室へエアコンが設置されました。

残りの小学校1～3年の未設置63室は、来年1学期に使用できるように前倒しで行われる予定です。(光成議員が質問)。

福木議員も7月24日に、市長に対し「小・中学校へのクーラー設置の早急な実施の緊急申し入れ」を行っています。

小・中学校ブロック塀対策は？

小・中学校ブロック塀対策については9月中旬に作業を完了させると答弁がありました。

6月の大阪府北部地震でブロック塀が倒れて女兒が死亡した事故で国からの通知を受け、市教委は市内の公立小中学校6校で調査しました。

その結果、安全性に問題がある8ヶ所の撤去、補強を9月中旬完了させる方針を示しました。

(永徳議員が質問)

平成30年度一般会計補正予算は、西日本豪雨災害の復旧工事費を中心とした5億9939万円でした。

災害の早急な復旧が求められていて、庁舎内には7月豪雨災害復旧プロジェクトチームが設置され、土木災害復旧、農業用施設及び林地の災害復旧に関することを行うとのことです。



一方で、他の自治体への派遣も行われています。
(総務文教委員会資料)

●平成30年7月西日本豪雨関連(9月16日現在)

7月9日消防職員を皮切りに延べ394人の職員を派遣
(8月15日と比較して+135人)

- ・現在は倉敷市真備地区の避難所運営支援を継続中
- ・避難所数ヶ所へ、1日当たり最大5名程度を派遣
- ・現地のニーズ等を踏まえ、職員負担も考慮しつつ、当面は支援継続の見込みです。

●平成30年北海道胆振(いぶり)東地震関連

- ・国際医療ボランティア AMDA へ派遣中の赤磐職員が、9月8日(土)にアムダの調整員として現地入りしています。
- ・北海道庁を訪ねた後、厚真町等各地の避難所を回って支援ニーズを調整中です。

*赤磐市立小・中学校トイレ改修(洋式化)計画は？

赤磐市立小中学校のトイレの洋式化の改修計画が、8月作成され議会に提出されました。

計画策定の趣旨は？

近年の生活様式に適合した改修要望が高まっています。

学校は、安心・安全な就学環境の堅持と同時に災害時には地域の避難場所としての役割も担っています。

高齢化が進みつつある地域住民の緊急時の利便性も勘案して、学校施設のあり方を考察して行く必要があります。

教育委員会のこれまでの取り組みは？

近年の家庭その他公共施設や商業施設での洋式便器の普及により、和式便器の使用が困難な児童生徒も増加しており、洋式化改修が学校要望として多く寄せられています。

市教委としては、落ち着いて授業が受けられるために環境改善の一環として、平成24年から3年間計画で、各棟各階に一ヶ所は洋式便器を確保すべく順次予算化して整備を進めてきました。

今回の改修計画は、平成30年度から平成39年度の10ヵ年計画で、和式便器を併用しつつ、目標は60%を洋式便器にし、年間2校を優先度を考慮して決定していきます。

福木京子議員の一般質問



①多賀の太陽光施設建設での防災対策について

質問 多賀の太陽光施設建設で7月豪雨での防災対策は万全だったのか。調整池の規模を大きくすることやため池の堤防のかさ上げなど考えるべきではないか。

答弁 7月の豪雨では、想定外の雨量があり沈砂池の能力を超える流水があり、一部の地区では、ため池、道路への土砂流出があった。

今後の対策として、大型の土止め堰堤を有効に活用し、最終調整池の前倒し着工を事業者が検討している。

砂川への影響は、多賀の開発だけでなく、いたるところから土砂の流出があり、堆積砂の増加が見られる。県と協議して対策を検討する。7月の豪雨を踏まえ雨水の再計算の検討依頼など事業者に要望して行く。

②河本地内での水路対策について

質問 河本地内で7月の豪雨時に道路が通行止めになる事態があった。

ここ数年の開発で地域環境の状況は大幅に変化している。水路対策は万全だったのか。

答弁 道路浸水等の被害が生じた。想定外の降雨及び被害場所付近の水路構造等による雨水の通水能力の低下などが原因と考えられる。今後、雨水排水について効率的な排水を行うよう検討する。

③山陽団地の活性化の具体化は

質問 平成30年6月に、1年間審議してきた山陽団地活性化計画が示された。その後の進捗状況はどうなっているのか。

特に山陽連合町内会からのショッピング跡地の利活用について所有者と話し合ったのか。

答弁 住民参加のまちづくりを進めるという観点から、7月初旬に山陽連合町内会に計画策定のご報告と説明をさせていただいた。8月末から各町内会において計画内容等について説明を開始したところである。協議を重ね具体的な実施計画を策定し進めていく。

土地の所有者に今後の意向を伺っているが具体的なものはなく、再度所有者と話し合い地域の声を届けていく。

④低所得者への高温対策を

質問 この夏高温の異常気象によって、熱中症対策など低所得者への電気代補助などの対策が求められている。中電や県に要望し、市独自でも検討をすべきだ。

答弁 猛暑が続く中で熱中症による健康被害が深刻化していることは認識している。生活保護制度でエアコンなどの冷房機器を購入する際の費用の支給を認めるよう改正された。電気代は最低生活費に含まれる。扇風機の併用など効果的な冷房の使い方の工夫などの対応をお願いしている。財源の手当が必要で、中電、国、県へ意見を述べていく。



学校給食を直営方式か、一部民間委託か PTA に意見を聞く説明会が開催される！

～各学校から3人ずつでは少なすぎる～

市教委は、全学校・園(合計23校)から3人ずつ出席してもらい、5つの中学校の会場で、学校給食問題について説明会を開く予定です。10月下旬から11月上旬にかけて開かれます。PTA 会員さんは、代表3人(少なすぎる)にしっかりと意見を届けてください。子どもたちに安心・安全で豊かな給食を作ってもらうために大いに関心を持って見守っていきましょう。

“市民の要望に予算を使うべき”と福木京子議員は反対討論

*平成29年度一般会計・国保会計の歳入歳出決算の認定について

平成29年度は、3月に市議選があり、共産党が実施したアンケートでは、国保税の引き下げ、介護保険料・利用料の減免、在宅介護支援、市民バスの充実、子どもの医療費無料化を高校卒業まで、教育の充実・障害者支援などの要望がありました。

ところが、一方、行財政改革で3年間で6億円のお金を削減し、財政調整金は3年間で26億円の積み増しをして合計73億円あります。お金の使い方を市民が望むべきところにもっと使うべきです。そうすれば、先ほどの要望も実現できるし高校生の通学費補助ももっと広範囲に出来ます。学校給食費の補助も出来ます。

高い国保税では、均等割などのところを検討して子どもが多い世帯の引き下げも出来ます。学校給食の一部民営化は行財政改革のためとって検討を続けていますが、検討はやめて、直営方式で続けるべきなので、反対です。

*平成30年度の補正予算について（山陽地域のごみ収集で直営が一部委託に）

赤磐市ごみ収集等業務委託料について、赤磐市全体では、旧山陽地域(桜が丘西・中島・日古木・二井を除く)は、これまでの歴史的なことがあって、直営方式でやっています。

今回、燃えるごみの収集で行財政改革だといって、山陽1～7丁目と河本地域を新しく委託に切り替えるとのこと。今回突然出され、なぜ委託するのか、どのように変わるのか納得できる資料提供がありません。対象地域の声を聞く考えもないとのこと。

鴨前清掃センターがダイオキシンで閉鎖され、桜が丘清掃センターへの統合のとき反対運動が起きました。それは桜が丘のごみだけを焼く約束だったからです。周辺の人だけにこの問題を押し付けるのではなく、市民みんながどのように協力できるのか考え、ごみを減らすために徹底的な分別をと提案してきました。

このとき職員が力を発揮して各地域を全て回って説明会を行い、ごみの26分別を決め減らしていった経緯があります。

最近では災害が多発し、今回真備町へも直ぐ支援に行かれています。総合的に考えて行財政改革で職員をどんどん減らすばかりで本当によいのか考えなくてはなりません。今回あえてこれまでの経緯を述べて警鐘をならすべく反対討論をします。